

17. 令和6年度 静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
院長：今井克美
統括診療部長：臼井直敬
地域連携係長：谷津直美
医療社会事業専門職：橋本睦美
専門職：小瀧 真（～令和6年9月）、
森下大輔（令和6年10月～）

まとめ

- ・当院は2025年にてんかんセンター開設50周年を迎える。2024年12月にてんかん病棟を4病棟から3病棟へと再編したが前年とほぼ同じ診療実績を維持している。乳児から高齢者を対象に、てんかんを専門とする医師約25名（小児科、神経内科、精神科、脳外科）と多職種メディカルスタッフが短期検査入院から長期治療入院まで対応している。
- ・静岡県では当院を拠点にてんかん治療医療連携協議会を年2回開催し、活動報告、評価、計画立案を行っている。てんかん病診連携システムを静岡市静岡医師会と運用し、周辺地域への展開を進めている。円滑に診療連携を行った実績のある施設、診療科、医師に対するてんかん診療連携登録証の発行数は徐々に増えている。
- ・てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わずてんかんに関する相談を受け付け、大規模災害発災時は24時間対応できる体制をとっている。様々な職種を対象としたてんかんセミナーを年1回ずつ対面開催した。県内の特別支援学校職員を対象とするてんかんセミナーや静岡県民を対象とした市民公開講座を開催し、好評であった。院外HPでは、てんかん情報センターの内容をアップデートし、複数のパンフレットを無料公開している。てんかん啓発活動を町に出て行う趣旨で、静岡市中心部のイベント参加によるてんかん啓発活動やプロサッカーチーム藤枝 MYFC とのコラボを継続している。パープルデー活動はライトアップする場所を増やすとともに、市民への啓発活動も予定している。
- ・1、2、3次の縦の医療連携構築の強化はもちろんのこと、3次医療機関においても施設によって得手不得手な分野があり、3次医療機関の横の診療連携活性化も望まれる。

1. 静岡県の連携体制の概況

当院は1975年に国内で初めてとなるてんかんセンターを開設するとともに難病（てんかん）診療基幹施設に指定されており、2025年にてんかんセンター開設50周年を迎える。静岡県のてんかん地域診療連携体制整備事業は2015年から厚労省と県の事業として継続している。静岡てんかん・神経医療センターを拠点に、西部の総合病院聖隷三方原病院、中部の静岡済生会総合病院、たぐちクリニック、東部の伊豆医療福祉センターなどの医療機関と、静岡県健康福祉部障害者支援局長、静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課精神保健福祉室長、静岡県精神保健福祉センター所長、静岡県西部保健所長などの行政担当者、てんかん患者、てんかん患者家族を構成員とする静岡県てんかん治療医療連携協議会を年2回開催し、活動報告、評価、次年度計画立案などを行っている。

静岡市静岡医師会と当院および静岡市内主要病院とのてんかん病診連携システムを2021年12月に開始し、その内容を静岡市静岡医師会ホームページ内のインターネット医療連携システムにて公開し、継続運用している。てんかん患者の静岡市葵区および駿河区における医師会会員からの当院へのご紹介と、病状の安定しているてんかん患者さんの当院から医師会会員への情報提供・戻し紹介のためのクリニカルパスの運用例も増加しており、静岡地区の連携体制を強化に寄与している。近隣の二次医療機関訪問によるてんかんに関する病病連携のための意見交換会は1回施行した。

病病連携促進事業 ※病病連携について意見交換を実施

訪問日	医療機関名
2024年7月2日	藤枝市立総合病院



当院との間で円滑にてんかん診療連携が行われてきた医療機関、診療科、医師について、2020年よりお申し出に応じててんかん診療連携登録証を発行することで、てんかん患者が安心して連携医療機関を受診できるような取り組みをしている。現在までの発行件数は、県内15件、県外16件となっている。

2. 活動状況

診療体制

てんかん初診外来は小児科・精神科・脳神経内科・脳神経外科医師（合計約25名）が小児・成人合わせて4-6名/日の診療予約を受け付けている。初診外来を通さずに初診前電話相談を通じての直接入院や、てんかん重症治療や長時間脳波等目的の検査入院も受け入れており、迅速な初診対応ができるように体制を整えている。

てんかん再診体制は4-7名/日の医師が診療し、成人てんかん医と小児てんかん医はともに毎日診療を行っている。定期的な当院通院に加えて、患者の状態に応じて地元の病院・クリニックと連携して当院受診を半年から1年に1度の検査時や状態変化時のみとするなど、様々な診療形態を提案している。

てんかん科の常勤医師は約25名（てんかん専門医14名、神経学会専門医8名、小児神経専門医4名、脳神経外科専門医3名など）で、てんかん院内認定看護師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理療法士、ソーシャルワーカー、保育士、放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師と共に包括的なてんかん診療に取り組むとともに、各種相談にも対応している。

てんかん病棟は4病棟を維持してきたが、新型コロナウイルス感染流行の頃から入院患者数の減少が続くため、職員配置適正化と病棟運営効率化のため2024年12月から1病棟を休棟し、A3病棟（てんかん外科関連等）、A4病棟（小児てんかん等）、A5病棟（思春期・成人てんかん等）の3病棟146床の運用としている。

診療実績

外来初診てんかん患者数は、2023年度は1183名/年、てんかんと神経難病を合わせた当センターの紹介率84.7%、逆紹介率211.4%と高い数字を維持しており、医療連携がより一層進んでいることを反映している。外来再診患者数の平均は87人/日であった。居住都道府県別の割合は、（初診、再診、新入院）別に、静岡県（40.6, 59.8, 23.3%）、神奈川県（20.3, 8.0, 20.3%）、愛知県（9.6, 9.2, 10.6%）、三重県（3.9, 4.6, 6.9%）、東京都（4.7, 8.0, 7.1%）、岐阜県（3.1, 1.1, 4.5%）、大阪府（2.6, 0, 1.9%）、長野県（2.5, 3.4, 2.4%）、山梨県（1.5, 0, 1.8%）、埼玉県（1.4, 0, 2.6%）、兵庫県（0.8, 1.1, 2.0%）など東海道と周辺地域が多数を占めるが、日本全国及び外国（中国など）からの患者も受け入れた。

てんかん病棟新入院患者数は2023年度2749名、入院中のビデオ脳波モニタリング患者数は2056名/年（小児1413、成人643）であった。

てんかん外科治療は、2023年度は73件で、内訳は側頭葉切除35件、側頭葉外皮質切除24件、多葉離断・切除4件、半球離断2件、脳梁離断4件などであった。頭蓋内電極留置は3件のみで、大半の症例では侵襲的な頭蓋内脳波を経由することなく手術が可能であった。

てんかんの食事療法は2-43歳の33名に継続中で、食事療法の内容はケトン食23、修正アトキンス食9、低炭水化物指数食1である。当院のホームページにおいて「ケトン食 簡単おいしいレシピ集」を公開し、随時追加・アップデートをしている。



相談事業

厚生労働省てんかん地域診療連携体制整備事業のてんかん診療支援コーディネーターとして7名（常勤6名、非常勤1名）が認定を受け、てんかんホットライン（専用電話回線、専用電子メール）等からの相談に対応している。てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わず、患者や家族、医療・福祉関係者からのてんかんに関する相談を国内・国外から受けている。専用電話回線による相談受付は平日9~17時に実施し、時間外と土日祝日は急ぎの場合のみ当直師長が対応している。大規模災害発災時は24時間受け付ける方針のもと、能登半島地震関連では1月2日から4月3日まで24時間受け付けを実施した。電子メールは必要に応じてメディカルスタッフの協力を得ながらてんかん専門医が対応している。2024年4月~2025年1月における相談者の年齢、居住地、相談内容は表のとおりである。

件数

患者年齢

	0-4 歳	5-9 歳	10-14 歳	15-19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳~	不明	合計
2023年度	32	23	33	42	60	30	19	68	55	5	114	481

地域別件数		居住地	
静岡県内	静岡県外	海外	不明
61	298	26	96

相談内容 (重複記載)		病状 治療 相談	運転 免許 ・資格	社会 制度 ・保険	就労 雇用 進路	結婚 妊娠 出産	日常 生活 対応等	学校等 病名 告知	他医療 機関 紹介	Dr・ SW より	そ の 他	合計
相談 内容	受診 相談											
2024 年度	209	226	14	16	4	2	74	0	0	0	0	545

相談後の対応方法（重複記載）

相談後の対応	相談のみ	当院受診・直入	当院受診検討	医療機関紹介	その他	合計
2024年度	311	105	59	36	13	524

研修事業

医師、看護師、その他のメディカルスタッフのてんかんに関する個別研修を随時受け入れている。2024年度は、小児科医5名12機会、脳神経内科医7名7機会、脳外科医1名1機会、精神科医4名3機会、産婦人科医1名2機会（各1-5日間）、看護師1施設2名1機会（2日間）、検査技師2施設2機会4名（各1-2日間）、心理士1機会1名（1日）、を受け入れた。

てんかん研修セミナーを毎年、医療関係者（医師、看護師、臨床検査技師等）および、福祉・教育等の専門職を対象に開催している。COVID-19流行の始まった2020年からは開催を見送っていたが2022年秋から順次対面にて再開し参加者からも好評である。

医師・看護師を対象とするてんかん学研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2025年 1月24-25日	小児てんかん学 研修セミナー	医師、ソーシャルワーカーによる講義 (対象：医師)	25名 (対面)
2024年 11月21-22日	てんかん看護 セミナー	医師、看護師、検査技師、薬剤師、作業療法士、ソ ーシャルワーカーによる講義 (対象：看護師)	35名 (対面)
2024年 11月15-16日	成人てんかん学 研修セミナー	医師による講義 (対象：医師)	20名 (対面)

教育・福祉専門職対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2024年 8月24日	小児てんかん 専門職セミナー	医師、看護師、保育士、理学療法士、心理療法士に よる講義	38名 (対面)
2025年 2月13日	成人てんかん 専門職セミナー	医師、看護師、作業療法士、薬剤師による講義	38名 (対面)

脳波検査技師対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2024年 11月28日	臨床検査技師のため の脳波検査セミナー	医師、臨床検査技師による講義と実習	15名 (対面)

特別支援学校職員などを対象にてんかん発作への対応等に関する講演会を静岡県内の特別支援学校において不定期に行った。

学校関係の講演会

開催日	学校名	内容	参加人数
2024年 5月29日	静岡県養護教員 6年次研修	・てんかんと頭部外傷における 救急処置（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	13名 （対面）
2024年 6月12日	静岡県中央 特別支援学校	・てんかんとは（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	20名 （対面）
2024年 7月12日	志太榛原地域 養護教諭対象 講演会	・てんかんとは（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	69名 （対面）
2025年 1月7日	南伊豆町立 南伊豆東小学校	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	17名 （対面）
2025年 1月30日	加藤学園 暁秀初等学校	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	25名 （対面）
2025年 2月10日	沼津市立 浮島中学校	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	11名 （対面）

他施設からの研修等受け入れ

開催日	病院名	内容	参加人数
2024年 7月4～5日	山口県立総合医 療センター	長時間脳波の看護について	2名 看護師
2024年 12月3～4日	埼玉県立小児医 療センター	てんかんの包括医療外科診療などについて	16名 医師3, 看護師4, 薬剤師2, 放射 線技師1, 検査技師2, 心理士2, 作業療法士1, 栄養士1

他施設に講師として派遣

開催日	病院名	内容	参加人数
2024年 5月10日	相模台病院	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	15名

埼玉県立小児医療センターがJEPICAに加盟されるにあたり2024年12月3～4日に16名がご来院くださり、当院のてんかん診療体制や活動をご紹介するとともに意見交換を行った。当院としても新たな刺激となり、得るものが大きかった。

啓蒙活動

静岡県西部、中部、東部地域において年1回ずつ、てんかんについての市民公開講座とてんかん専門医による個別相談会を日本てんかん協会静岡県支部との共催で行っている。

市民公開講座（個別相談会）

開催日	対象	開催地	内容	参加人数
2024年 8月31日	静岡県民	沼津市	・講演会（医師）	台風のため中止
2024年 9月28日		清水市	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	50名 対面 個別相談 2件
2024年 10月12日		浜松市	・個別相談	20名 対面 個別相談 4件

てんかん研修セミナーや各種講演会に参加できない人のためにホームページ上にてんかん情報センターを開設し（右記 QR コード）、疾患の説明から日常生活の過ごし方に至るまで幅広い内容の情報とQ&Aを公開し、随時追加・修正している。



2023年に作成した「臨床検査技師のためのてんかんデジタル脳波検査ガイドブック」を当院ホームページ上で公開し無料ダウンロード可能とするとともに、検査技師や医師の求めに応じて無料配布している。

てんかんを持つ人の就労を支援するために作成したパンフレットと動画をてんかん情報センター内で閲覧をできるようにし、静岡県庁には訪問企業への配布を依頼している。

てんかんの啓発は病院の中でできることは限られるため、町の中に出て行って積極的に活動することが重要と考え、静岡市中心部で年1回開かれる静岡市主催「こころのバリアフリーイベント」では当院ブースを設置し、一般市民を対象にてんかんについての啓発活動を行っている。今年度は2025年3月15日（日）に予定している。

静岡県藤枝市のプロサッカーチーム藤枝MYFCは藤の花のパープルをイメージカラーとしていることから、当院のてんかん啓発運動とのコラボを2022年から始めている。ホームゲームの日には試合会場にてんかん啓発のブースを設置し、てんかんに関するパンフレットとパープルデーに関するグッズを配布している。2024年は2月24日（土）の開幕戦で、パープルデーにちなんだグッズとてんかん啓発チラシを入場ゲートで配布した。

てんかんのある人に 就労の機会を！

てんかんがあるけれど働きたい、働ける人たちがいます。
正しい理解で、雇用支援にご協力ください。

- はじめに—— 1
てんかんの有る人の就労を支援するスタッフの働き方と就業支援への取り組みです。
- てんかんについて—— 3
てんかんにして、就労が難しい理由や就労が難しい理由を克服するための取り組みです。
- 就労好事例—— 5
てんかんの有る人が活躍する事例を紹介します。
- 合理的配慮について—— 9
てんかんの有る人が就労に必要とする合理的配慮について解説します。
- てんかんQ & A—— 11
てんかんに関するよくある質問に回答します。

パープルデー関連では、静岡市役所の協力により、静岡市役所葵塔（3月1~26日）に加えて駿府城公園巽櫓（3月24-26日）もライトアップの予定である。3月19-26日には静岡げやきライオンズクラブの協力により日本最長の吊り橋である三島スカイウォークと三島楽寿園をライトアップし、20日（祝）にはてんかん啓発のためのパンフレットとグッズを三島スカイウォーク入場者に配布予定である。院内では3月26日には演奏会、大道芸パフォーマンス、様々なワークショップや参加型活動を含む院内セレモニーを予定している。

今後の課題

当院はてんかんに関する医療資源に恵まれており、より多くの患者さんにご利用いただきたいと考えている。1, 2, 3次医療機関の縦の診療連携の強化が進められているが、1, 2次医療機関からご紹介いただく患者さんの中には、その後の地元医療機関での対応やてんかんセンター病院との診療連携に消極的な説明をされたという事例が未だにあるのが残念である。3次医療機関においても、患者の年齢、診療科、検査体制、外科や食事療法への対応、包括医療など、施設によって得手不得手な分野があり、3次医療機関の横の診療連携の活性化も望まれる。

